

石垣島集落における住民の空間認識からみた 地域社会の特徴と観光開発の影響



石垣の伝統的な風景が残る白保集落。(担当者撮影)

担当者

地域貢献活動の具体的な内容と目的

本研究では【沖縄県石垣市】を対象に【観光開発に伴う地域社会への影響】に関する危機の克服に向けた研究活動を行っている。本研究の取り組みは SDGs における「ゴール 11 住み続けられるまちづくりを」の目標の達成に資するものである。

◆石垣市における観光開発とその影響

石垣市は 2013 年の新空港開港や外国人訪日ブームにより、当初 2020 年までの目標としていた大台の 100 万人を早くも 2014 年に達成するなど、近年観光客が激増している。それに伴い観光開発も島の様々な地区で多く計画・事業化されている。観光開発はその形態に関わらず、地域の経済活動活性化などの正の影響だけでなく、生態系への影響、資源消費量や廃棄物の増大など自然環境への負の影響があることが指摘されている。さらに物価上昇など経済的影響に加えて、観光業従事者、観光客など外部者の価値観や行動様式が、生活文化・社会環境など地域社会に与える影響も無視できなくなっている。石垣市でも既にこれらの問題点が認識されており、経済、環境、社会のバランスが取れた観光・地域振興のあり方を踏まえた、「量」よりも「質」を重視する観光政策・地再生戦略への転換が求められている。

◆観光開発が地域社会に及ぼす影響に関する危機の解明と克服

本研究では、地域社会に対する観光開発の影響の解明と克服に向けた、各集落の地域社会の特徴の把握を試みる。石垣島に点在する集落は多様な背景を有しており、各集落の生活文化・社会環境の総体が、可視化、共有されていないため、開発により無自覚なまま破壊・消失される可能性が高いという点で地域における危機といえる。しかし地域社会の特徴の把握は地域住民への丁寧なアプローチが必要となるなど研究・実践上の課題が多い。本研究ではまず、これらの危機の程度を図る基礎データとして、石垣島集落の地域住民の空間認識からみた地域社会の特徴を空間的に把握・可視化し、地域住民・行政と共有することを試みた。

地域貢献活動の主な特徴及び特筆すべき点

◆活動の経緯と特徴

申請者および共同研究者らは、石垣市を対象として観光開発による自然環境と社会環境への正・負双方の影響を評価するための「RAKUEN 指標」を開発する研究を環境省等

の補助により実施してきた。RAKUEN 指標の開発研究は石垣市に認められ、同指標に基づく計測が石垣市観光基本計画へ位置付けられ、さらに本年度は具体的な指標の計測の実施が計画されるなど、石垣市における観光施策の立案に実践的に寄与している。

以上の経緯を踏まえ担当者らを中心に、特に地域社会に観光開発が及ぼす影響の解明に取り組み始めた。従来の観光客満足度や地域満足度に関する指標に加えて、地域の慣習・文化の変容等の社会的側面の影響に関する項目を追加することにより、指標測定の効果が大きく向上することが期待される。具体的には、観光施策の重要な指標である地域住民の満足度の分析の基盤となる地域社会の特徴を地域住民の空間認識から読み解く試みに取り組んでいる。

一般に民俗学、人文地理学等において、地域住民の空間認識はコミュニティの形成過程や住民活動に影響を受け、地域社会の特徴を写すといわれているが、石垣島の各集落は多様な背景と活動を有しており、一概にその特徴を捉えることは難しい。そこで、地域住民が捉える地域の範囲（境界）や中心の空間分布を記述し、集落形成の歴史的経緯、生業、コミュニティ活動等の特徴等との関係を分析し、それらから急激に変化する地域社会の現在の特徴の読み取りと、将来的に観光開発から受ける影響等について考察をおこない、この危機に対応する方法について検討をした。



例)伊原間集落の空間的特徴と地域範囲に関する空間認識の特徴(山本、福島、渡部 2019 より引用)

石垣の歴史・社会的特徴の分析より抽出した代表的な7集落（登野城、宮良、白保、名蔵、川原、米原、伊原間）について、集落形成の歴史的経緯、生業、コミュニティ活動等の特徴を整理し、各集落の地域運営を担う公民館所属の地域住民を中心に、空間認識の基礎となる集落範囲（境界）と中心に関する特徴との関係性を分析した。その結果、現居住範囲を超えた旧集落位置や耕作地等までを含めた境界の認識、地域活動を行うコミュニティ単位によって異なる中心の認識など、地域社会の理解につながるいくつかの特徴が明らかとなった。この成果は学術論文として取りまとめ投稿され掲載済みである。¹

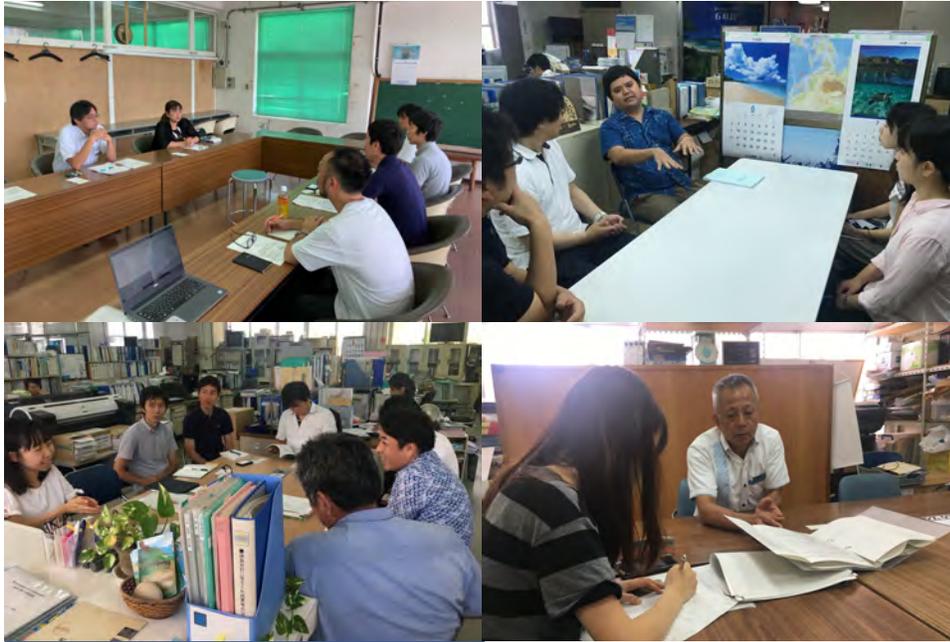
1. 山本奏音、福島秀哉、渡部哲史：集落形成・生業・地域行事からみた石垣島集落における地域住民の空間認識の特徴，実践政策学，Vol.5，No.1，pp.87-100，2019

◆本年度の主な活動内容

本年度は対象7集落の公民館および市役所において研究成果を共有するとともに、地域社会の現在の特徴を読み取り、将来的に観光開発から受ける影響について考察し、この危機に対応する方法について議論をおこなった。主要な結果である特徴の異なる集落の地域の範囲の認識に影響する要因が、地形、居住範囲、生業・土地利用、信仰、集落の境など共通した項目で説明できることについて、各集落の地域特性をマクロに説明する一つの基準になり得るということを共有できた。また地域らしい景観に関する議論を通して、歴史・伝統的でありながら、1980年代頃より地域らしさを代表する素材として観光政策に用いられるようになった赤瓦景観の重要性が明らかになった。そこで石垣市の関連部局や、再び各地域の公民館へのヒアリングを通して、赤瓦景観と地域らしさの認識に関する地域特性の把握を試みた。



各集落の公民館との研究成果報告・議論の様子(担当者撮影)



石垣市観光文化課・教育委員会・都市建設課等との議論の様子(担当者・共同研究者撮影)

その成果として、伝統的赤瓦景観の変遷と行政による赤瓦景観の形成過程を整理し、計画・施策展開の背景として①地域らしさの重視②木造赤瓦葺き家屋の減少③意思決定をする世代の赤瓦景観への愛着があったことを指摘した。また伝統的赤瓦景観、現代的赤瓦景観への愛着形成要因を分析し、伝統的赤瓦景観には①経験に基づく愛着形成要因②抽象的な愛着形成要因があること、現代的赤瓦景観には①抽象的な愛着形成要因②伝統的赤瓦景観の評価に基づく愛着形成要因があること、双方に複層的な愛着形成が行われていることを明らかにした。これらの研究成果については、学術論文として投稿するとともにこれまでの研究成果同様、石垣市、各集落公民館等とその内容を共有する予定である。

活動中に苦心・工夫したことなど

地域社会の研究に関しては、基礎自治体、地域住民との協働が不可欠である。本研究においても、石垣市、集落運営を行なっている公民館等との研究協力関係を丁寧に構築するよう努めた。また研究協力に基づく成果が地域のまちづくりへ活用されるよう、成果の発信・共有に努めた。また、石垣島のような地域社会の多様性を記述・共有する尺度の設定について、地域の歴史・文化の影響を受けていると考えられる地域の空間認識、および行政の観光施策の影響を踏まえた地域性の差をみる対象として赤瓦景観への愛着に着目するなど、工夫をおこなった。

地域貢献活動の成果と今後に向けた課題

本研究を通して、地域社会と地域戦略、観光戦略の関係性を考察する際に、指標となつる空間認識と赤瓦景観という伝統的景観と観光政策の関係からみた地域社会の特徴の一部を抽出した。今後は、これまでの成果をより広く地域住民や行政と共有しつつ、移住者や職業形態、地域行事への参加度など、住民による差異を確認し、仮説構築の精度を高め定量的分析等を重ねることで、観光戦略・地域戦略への実践に反映させていくことが期待される。

また、移住者等背景の異なる住民の空間認識を調査した上で、より多角的に地域社会の特徴を分析するとともに、その結果を記述・可視化し、公民館等を通じて地域住民と共有することで、将来の観光戦略、地域戦略立案に向けた住民参画に結びつけていきたい。なお、これまでの取り組みにより、石垣市、集落運営を行なっている公民館等との研究協力関係を構築できており、引き続き本研究のこれらの取り組みを通じて研究成果を見える化し、石垣市における観光施策ならびに持続開発な開発という面で地域貢献に資する研究・実践活動に結びつけたい。

謝辞

本研究にあたって、石垣市企画部観光文化スポーツ局観光文化課、対象集落の公民館長、アンケート回答にご協力いただいた住民の皆さまに、多大なご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。